

兵庫県立淡路視覚特別支援学校 学校評価 学校関係者評価報告書（平成20年度）

I 学校教育目標
視覚障害等に基づく種々の困難を改善・克服し、健康で明るく、こころ豊かに生きる児童生徒を育成する。ライフサイクルを見通した教育と、自己実現を目指す教育の中で、社会の一員として可能な限り主体的に生きる力を育成する。

II 本年度の重点目標
1 過去の国家試験分析を行い、合格に向けての支援を行う。
2 教職員が、特別支援教育への変化に対応できるよう校内研修を積極的に行い期待される資質と能力の向上に努める。
3 特別支援教育における地域のセンターとしての役割を果たす。
4 情報管理についての知識を得て、その徹底を図る。

総合的な学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特色となっている理療を通した教育活動については評価できる。 ・研修等反省すべき点についても、小規模校であっても他校と連携をはかるなど工夫して取り組む必要があったのではないかと。 ・本年度をもって閉校となるが、これまで果たしてきた機能については、県立視覚特別支援学校に引き継ぎ、淡路の視覚障害者を大切に考えて欲しい。

III 自己評価							
領域	評価の観点	評価項目	実践目標	自己評価結果			
				A	B	C	D
学校運営	開かれた学校づくり	1 家庭や地域の人々への広報活動と情報発信	・ホームページや学校だより等により情報を発信する。	3	1	3	
		2 学校評議員制度等の活用	・学校評議員会での意見を現場に反映させる。	1	5	1	
		3 学校行事や理療活動等による地域との交流	・臨床実習や理療活動等で地域との交流を図る。	6	1		
		4 地域や関係機関と連携した安全な学校づくり	・地域や警察・消防の協力を得て防災や安全に関する訓練や研修会を実施する。	4	3		
	進路指導	5 進路指導体制の充実	・生徒の学力分析のもと、組織的・計画的に、模試や補習等を実施する。	5	2		
		6 職業観・勤労観の育成	・臨床実習・就業体験活動を通して、技能の向上と職業観・勤労観の育成を図る。	5	2		
	教職員の資質向上	7 特別支援教育への変化に対応する意識の育成	・研修会等を通して、特別支援教育についての情報の共有化を図る。		3	3	1
		8 実践的指導力と専門性の向上	・国家試験分析、校内模試の作成や問題検討会を通して、専門性の向上を図る。	6	1		
		9 特別支援教育理解のための計画性のある研修の実施	・夏季休業中を中心に特別支援教育理解に向けた校内研修会を計画的に実施する。		3	4	
	危機管理体制の整備	10 実践的な研修と訓練を通した協働体制の確立	・危機管理マニュアルをもとに、状況に応じた個々の動きを検討しながら、避難訓練等を実施する。	2	5		
		11 施設設備の安全対策	・月1回安全点検を実施する。	5	2		
教育課程	個に応じた学習指導の徹底	12 生徒の学力に応じた指導方法・体制の工夫	・校内模試等の結果を組織的に検討するなど教師間の連携を密にして、生徒個々に適した指導を行う。	5	2		
		13 国家試験合格に向けた指導の充実	・過去の国家試験を分析し、授業や補習に生かす。	5	2		
	臨床実習の充実	14 技能及びコミュニケーション能力の向上	・理療実技研修検査を実施・分析し、実技授業に生かす。	5	2		
課題教育	防災・安全教育	15 教員の防災・安全教育に係る指導力と実践力の向上	・AED実技を含む救急救命等の研修会により、教職員の安全に対する意識と技能を高める。	5	1	1	
		人権教育	16 人権教育推進体制への取り組み	・人権教育推進委員会を中心に、人権研修会の実施内容などを計画・実行する。	3	4	
	17 セクシャルハラスメント防止の意識づけ		・臨床実習等に際して、セクハラ防止に対する意識を高める。	3	4		
	YU・らいふ・サポート事業	18 社会性や積極性を育てる体験活動の展望	・理療活動を通して地域の人々と接し、技術の向上を図るとともに、挨拶等の接遇や丁寧に説明する姿勢を身につける。	5	2		
		19 地域の協力を得た連携の推進	・理療や視覚障害教育への関心を高め、積極的な参加を促す。	3	4		
	地域のセンターとしての役割を果たす	20 校外研修等への講師派遣	・要請に応じて、校外の研修会等に講師を派遣する。	5	1	1	
		21 教育相談活動の実施	・学校の専門性を活かしながら、適切な教育相談を誠意をもって行う。	4	3		
	健康教育	22 学校給食を通した食に関する指導	・食の大切さを認識させ、健康を保持・増進する態度を育てる。	3	3		1
	情報管理	23 情報セキュリティの能力向上	・情報セキュリティに関する基本的な知識を身に付け、コンピュータやインターネットを安全に使えるようにする。	3	3		1

重点目標を中心とした学校関係者評価
<ul style="list-style-type: none"> ● 「教職員が、特別支援教育への変化に対応できるよう校内研修を積極的に行い期待される資質と能力の向上に努める。」について ・ 校外からの講師を招いたり校外で研修したり、資質の向上を求む。 ・ 学校の規模からやむを得ないところもあるが、もう少し努力してもらいたい。 ・ 教職員の資質向上はとても大事な項目と思います。実践項目7・9について、全体としても一番低い評価となっていることがとても残念であり、大きく反省すべき点のように思います。目標として掲げる以上、アクションプランを立て進捗管理していただきたいかっと思ます。 ● その他の評価項目について ・ 高等部3年生に対して、進路指導に係る項目によく取り組めたのではないかと。
<ul style="list-style-type: none"> ● 「過去の国家試験分析を行い、合格に向けての支援を行う。」について ● その他の評価項目について ・ 教育課程に関する3つの項目は評価できる。
<ul style="list-style-type: none"> ● 「特別支援教育における地域のセンターとしての役割を果たす。」について ・ 地域のセンターとして、卒業生や地域で活動している人(開業等)たちの技術研修を進めていく必要があると思う。 ・ 要望に応じて講師を派遣したり、淡路地区の中途失明者に対して点字指導がなされたことは評価できるのではないかと。 ● 「情報管理についての知識を得て、その徹底を図る。」について ・ 閉校にあたりもっとたくさんの研修会をもって、徹底を図るべきであると思う。 ・ ウイルス対策ソフトは早急に対応する必要があるのではないかと。 ● YU・らいふ・サポート事業について ・ 「ひょうご県民ボランティア活動賞」表彰おめでとうございます。長年の地道な活動結果の賜物と存じます。 ● その他の評価項目について ・ 視覚障害者を扱った人権映画を地域の人達と一緒に見たことは良い取り組みではないかと。

自己評価の 評価基準	A	よくできた。十分達成している。 目標に対して具体的な方策が順調に進行しており、当初の成果が得られていると判断される。
	B	できた。おおむね達成している。 目標に対して共通理解をもち、具体的方策の実行に着手しつつある。
	C	あまりできなかった。あまり達成されていない。 目標に対する方向性はあるが、共通理解が十分でなく、全体的に停滞している。
	D	できなかった。ほとんど達成されていない。 現状に満足して、問題意識がない。問題意識はあっても手つかずの状態である。

自己評価における特記事項
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度から評価項目の実践目標を1つとした。 ・ 評価は、従来通りの4段階で評価した。